



さいたま市シニアユニバーシティー岩槻校第9期校友会会報第4号

岩槻校9期校友会の6年を振り返って

前会長 関谷 ○

9期が発足し6年、あっと云う間・・・早いものですね。発足時の76名(現在46名)、右も左も分からず決められたカリキュラムの講義等を月2～3回こなして来た2年間(2年目は大学院)を懐かしく感じ ⇒ 3年目の手探り状態での自主運営・校友会への参加と活動を広げてきました。

初代の羽廣会長(1年)⇒ 澄川会長(2年)⇒ 関谷(2年)⇒ 瀧田会長(現在)と続いて来ましたが、順調に活動できてきたのはそれぞれのリーダーを支えてきた素晴らしい役員と会員皆様のご協力があったからこそと思っております、特にほぼ毎月開催される全体集会への参加率の高さ(毎回90%前後)、各行事への積極的参加等々、我が9期は素晴らしいグループです。

私事になりますが、6年前の発足時から会計・副会長・会長と5年間役員に携わり、特に岩槻協議会では文化祭統括及び昨年度の企画部統括として無事役目を果たすことができ、ホットした時間が続いています、これらも9期役員・皆さんのバックアップがあったからこそと感謝しております。

この間特に記憶に残るイベントはひたち海浜公園のバス旅行(ネモヒラ・チュウリップ・海鮮丼)史跡めぐり平林寺(紅葉)吉田講師(ボクシング)協議会講演、文化祭の練習・等々でした。

今期は 瀧田さんに会長職を受けて頂き、一会員として活動に参加しておりますが、執行部の皆さんの時間を割いての行事準備・集会対応・気配り等々を見て感謝・感謝！！です。特に各講習会の選択・毎回発行される「老いを楽しむ言葉」等々 瀧田会長色が強く出ており頼もしい限りですが、会長があまり抱え込み過ぎないようにと思っております。

昨年の暮れ瀧田会長から 今後2～3年後の我が9期の運営体制についてどうしたら良いかの相談を頂きました、この背景には2020年度に岩槻協議会会長+総務部長 2021年度には連合会の会長+総務部長の大任が9期の担当として回ってきます。現執行部内でも並行して検討されておりますが、各会員の役割も大きくなると考えます、9期一丸となって対応していかないと・・・それぞれが出来る事を協力し、前向きに対応して行きましょう。

この2～3年を乗り越えれば、さらに素晴らしい楽しい9期が待っている を信じて。

歌舞伎を観てきました

6班 内藤 ○○

師走の何かと気ぜわしい日々の中。20日、春日部駅に集合。総勢5人で、国立劇場に観劇に行ってきました。歌舞伎と言えば、銀座の歌舞伎座が思い浮かびます。国立劇場は、私が高校時代学校で観劇会があつて以来ですから、半世紀ぶり(笑)でした。

演目は“増補双絛巴”石川五右衛門を題材にした五右衛門の生涯を綴った物語。宙乗りもあり楽しませてくれます。豪華な絨毯の上をいそいそ歩き店を巡る。幕間のお弁当を楽しみの一つ。ここ五年程、都内で開催される子供歌舞伎に足を運んでいます。子供といえども、大人顔負けの本格演技です。

忙しくしている日々だからこそ、時には、こんな楽しみ必要ですよ。春日部に戻り、中華料理店にて祝杯(?)をあげ、帰路につきました。皆様お世話になりました。



箭弓稲荷神社と吉見の百穴めぐり

6班 樫木 ○○

11月27日(火)大宮駅コンコース豆の木付近、9時30分21名集合完了。地震などで電車に影響があるかと心配しましたが、ほぼ時間通りに動き安心しました。JRで大宮駅から川越駅に、東部東上線にて東松山駅へ、10時50分到着、ガイドさんに迎えられ、組み分けしてスタート。

箭弓稲荷神社は、奈良時代の創建で五穀豊穰・商売繁盛の神様として広く知られ、江戸時代に建てられ本殿内外には見事な彫刻が施されておりました。彫刻は彩色がありませんでしたが、見事なものでした。

昼食は、東松山で『みそだれやきとり』が有名なお店で「焼きトン定食」を食べました。

次に向かったのが、「吉見の百穴」で古墳時代後期につくられた、横穴墓群で現在確認されている219基は、日本一の規模を誇る横穴古墳群です。その他天然記念物のヒカリゴケや地下軍需工場跡地などを見学し終了。今回は、ガイドさんの案内により、分かりやすく楽しく回ることが出来ました。



自主講座「ポルトガル旅行講座」開催

2班 瀧田 ○○

12月11日(火)自主講座として開催しました。旅行は、2013年6月20日～30日までの11日間、「国際ロータリー世界大会」参加の一環として観光したとのこと。多くの写真を上映しながら、講師の雄弁な説明により疑似体験したような気持ちになり有り難うございました。次に記憶に残った講座の一部を紹介します。

日本からの直行便がなく2回乗り換え後、約20時間でリスボンのホテルに到着。同ホテルに7日間連泊しましたが、「四つ星ホテル」とのことに理解に苦しむ施設とのこと。4日間荷物が届かないトラブルがあったとのこと。最初の観光は、ポルトガル中南部の都市「エボラ」の旧市街にある古代ローマ時代の「ディアナ神殿・エボラ大聖堂・サンフランシスコ教会」などです。サンフランシスコ教会には「人骨堂」があり、数千人の人骨で作られた壁などがあり、「自分が死ぬことを忘れない」ための教えとのこと。

リスボン市建物の屋根は「赤い屋根」をしており、講師の好きなリスボンの風景だそうです。

ロカ岬には「ユーロシア大陸最西端の建造物」があり、西側には大西洋が広がり、その遙か先にはポルトガル領のアドレス諸島がある。ここには、ポルトガルの詩人、ルイス・デ・カモンイスの叙事詩「ウズ・ルジアダス」の一節「ここに地終わり海始まる」を刻んだ石碑が立っている。

講師から提供された写真をもとに記述しましたが、レジュメには記載されていない「防犯」などについても多くの記憶に残りました。PowerPoint データーも218ページと作成していただき有り難うございました。(浪江記)



ディアナ神殿



駅のアルデージョ



ポルトの赤い屋根

1月7日午前8時40分春日部駅集合、予定通りに出発し、堀切駅に到着、地上に出ると思ったより風が強くびっくり、その風の中、下町情緒を楽しみながら、多くの参拝客と一緒に七つの福の神をめぐり、1年間の「家内安全・無病息災・商売繁盛」や「七難即滅・七福即生」を願い参拝しました。

隅田川七福神は文化年間に始まったといわれ、大正七年(1918)に百年記念行事が行われ、平成三十年のお正月は二百年記念となったそうです。

参拝後の昼食は、江東区役所レストランの予定が、東京そらまち内の和風レストラン「そらまち亭」に変更され、美味しいランチをいただきました。

食後、「東京スカイツリー見学」と「そらまち散策」とに分かれて行動。

タワー見学者は、好天の中関東一円を一望のもとに眺め満足し、そらまち散策者は、お買い物などを楽しみ、時間通りに、昼食をした店舗前の待合所に集合、押上駅から帰路に着き、春日部駅に到着解散となりました。グループFの皆さん、諸事項の手配を有難うございました。



百花園



東京スカイツリー



東京そらまち

「凧作りで童心に帰った一日」

新年顔合わせの日、庄和町大凧保存会を講師にお願いし、庄和町の大凧を中心に、日本の凧の歴史と各地に伝わる凧文化を学んだ。最初に庄和町の大凧の由来と百疊敷といわれる巨大な制作過程と実際に大空に舞い上がる大凧の映像を鑑賞。日本に由来したのが七百十八年とのこと。埼玉県には庄和町のほかに鴻巣、騎西、浦和のほかに岩槻にも奴凧を揚げる風習があったが場所の確保ができなくなり残念なことに途絶えてしまったらしい。凧には様々な形があり、中国では実際の現物を模したものが多くみられるとのこと。

三～四十年前に米国から必ず揚がると言われた凧が一世を風靡したことを思い出した。講義終了後、全員で子供に帰保存会の講師の指導で凧作りを楽しんだ。数十年前の子供のころを思い出しながら「必ず揚がる凧」ダイヤ凧を作った。本当は時間があればクレパスで自由な絵とか文字とかを描くのが楽しいが残念なことに時間なく家での宿題となってしまった。童心に帰ったひと時を共有できたことは何物にも代えがたい笑顔の一日となった。(文責 瀧田)



「古希素浪人の独白」

1班 上林山 ○○

70年前の1948年。鹿児島県の指宿で私は生まれました。団塊の世代2期生です。高校を卒業すると夜行列車に乗って京都へと旅立ちました。希望に燃える18歳でありました。花の京都での4年間は、貧乏学生でしたが楽しい時代でもありました。1971年に上京。会社人生活が始まります。高度経済成長の真っ盛りでありました。2010年6月にサラリーマン生活を終了します。61歳9ヶ月でした。リタイアして、これからをどう過ごすか？思案の末にたどり着いたのが、城山三郎「この日この空この私」から引用した6ヶ条を素浪人生活の心得としました。



1.年齢に逆らわず無理をしない 2.嫌なことはせず楽しいことをする 3.好きなものを飲食する 4.義理や面子や思惑を捨てる 5.友人を作り敵を増やさない 6.眠たい時に寝て覚めたら起きる ——です。古希を迎えた素浪人の命題は、これからの下りの人生を、ポジティブな思考で、如何に楽しく愉快地に生きるかです。無為に過ごす日々の暮らしのなかにも、感動とキメキを覚えながら生きていきたいと思えます。(本人投稿)

「くすり」ができるまで

2班 中澤 ○○

永年、製薬会社で研鑽を重ねてこられた中澤さんから表題のお話をいただいた。最初に「くすり」がどのようにして我々の手元に届くまでの長い長い道のりのお話をいただいた。開発当初から長い年月と億単位の研究費を費やしたのち、やっと日の目を見ることが出来るものは数万分の一しかないような。その間様々な動物実験や、患者さんに参加してもらって臨床試験を経て安全性や有効性をチェック、その後この世に出て来るのはとても貴重なものであることが理解できた。



先ず「くすりの候補」を非臨床試験として動物を使用して毒性研究を一般毒性と、特殊毒性に分け行い、併せ薬理研究で体内にどのような影響があるかなど、有効性や安全性などの研究結果を基に、さまざまな臨床試験を経て患者に対しての有効性、安全性、用法用量等を確認し、集められたデータから適応症等を決め、厚生労働省に申請。審査に合格すれば厚生労働省から承認されやっと思世に出ることになるような。非臨床試験から発売まで短くても9年、長ければ十数年という年月の旅である。会員の皆さんから「ジェネリックの効用」とかいろいろな質問が出たが中澤さんから丁寧な解説をいただき有意義な一時であった。(瀧田記)

「我が故郷 釜山の思い出」

2班 瀧田 ○○

上林山さん、中澤さんの後で聞き手が疲れたところからの話で、本人はやりづらかったと思うが、瀧田さんのこれまでの生きざまを話された。彼は釜山で生まれ、7歳まで過ごした幼少の頃の思い出を貴重な写真を写しながら語っていただいた。80年近い古い子供のころの写真は父親が写真好きだったので残されていたようである。昭和19年に日本に転居。戦後の配給時代の苦労を「ふすま・どんぐりの粉・押し麦・乾燥サツマイモ」などの実例を挙げながら話された。妻の一言で18年務めた会社を転勤命令で退社。個人商店を設立。長い行商時代を過ごし、75歳で廃業の後、妻の勧めでシニア大学生生活に。現在は一般の大学で孫と同年配の学生と机を並べて学生生活をエンジョイしているとのこと。瀧田さんらしい一面を垣間見ることができた。(町田記)



こうした会員が各自それぞれに自由なテーマでその人の思いや体験談などを語る機会は初めての試みであった。興味のない人も或いは心から驚嘆する人も人それぞれではある。今後も継続できれば楽しいかも。会員の皆さんの中からの積極的なご参加を心から期待しております。